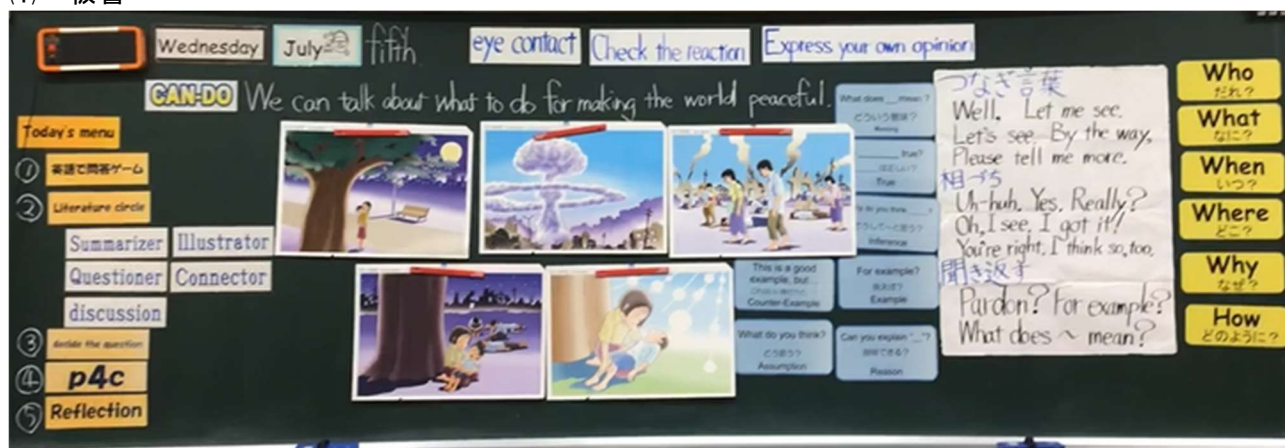


## 授業の成果と課題

## 1 授業の実際

## (1) 板書



## (2) 生徒の学びの実際

- LC と p4c では自分の意見を人に伝える力が必要で、これを繰り返すことで、意見を言うことができるようになり、自信を付けることができた。
- LC は少人数で自分の考えが言いやすい。また、p4c ではできるだけ早く自分の考えを伝えるために、英語で何を話すのか早く考えないといけない。いろいろと考えているうちに、自分の考えもより一層深まっているように感じる。
- LC も p4c も自分の意見を伝える場だから、必然的に話そうという気持ちになる。みんなも意見を出しているので、自分も意見を持とうという気になれる。
- p4c では、自分の主張を英語で話すことは少なかったが、みんなと意見を交換し合えたことで、よりそのお題に対して、「あ、そういう意見もありだな」と新しい視点を持つことができた。
- 自分の意見と関連づけながら他の人の意見を聞くことで、自分の意見を改良することができたり、新たな視点での考え方をを見つけることができたりした。
- 他の人の意見を知って、それと関連させて自分の考えをみんなに伝えたいと思った。
- 友達と話すことで考えが深まったり、新しい考えを思いついたりすることができる。

## 2 成果（○）と課題（●）

## (1) 生徒が物語の内容を理解し、自分ごととして自由に表現するために、リテラチャー・サークルや車座での話し合い活動を行うことは効果的であったか。

- 継続して行うことで、生徒が英語を話しやすくなってきているように感じた。LC→p4c の流れにより、少人数で英語を話すステップを踏むことで、全体の間でも自分の意見を自信を持って話せるようになってきたと感じた。
- 多様な意見、違った考え方にも巡り合うことができるようになり、生徒の思考の幅が広がったように感じた。生徒がお互いの意見を尊重し、話す内容・中身・題材が大切であることに意識が向いてきているように感じた。
- 間違っても構わないので自分の考えを話しても大丈夫という安心感が生まれた。話し手は、わかってもらおうとすることが大切で、聞き手は話し手が何を言いたいか、わかろうとすることが大切という雰囲気が教室内に生まれ、積極的に英語を話そうとすることに繋がったと感じた。
- 今後は、セントアンドリュース校の生徒と英語で話すなど、ネイティブの生徒と話し合う場面を今まで以上に設定することで生徒が自信を持って英語を話すことに繋がると考える。

## (2) 振り返りを行うことは、生徒が自分の英語の学習に対するメタ認知を向上させることにつながっているか。

- ロイロノートを使うことで、教師が生徒の振り返りの状況をすぐに確認できるのは良い。
- ロイロノートの質問項目が英語であった。解説をしていたが、日本語でも良いと感じた。
- 生徒が継続して振り返りを行い、継続して記録し、can do リストと比較することで、成長を実感できるような振り返り一覧表を作ってみるのが良いように感じた。